

11月18日(金)

視察先：広島県呉市 呉市議会報告会（宮原会場）

参加者：赤木委員長、乗越副委員長、大谷委員、宮川委員、谷委員、大江委員、竹川委員、
家森委員、渡邊委員、寺尾委員、下村委員、事務局随員2名

調査事項

「議会報告会（現地視察）」

・事業概要

1 開会（19：00～）

(1) 出席者自己紹介（司会進行 呉市議会
民生委員会 池庄司委員長）

参加者数・・・20：30 現在 37 名

（本委員会視察参加者を除く）

参加者は、男女別では男性が約 8 割で、
ほとんどが高齢者と見受けられた。

(2) 副議長挨拶（19：01～） 茶林副議長
議会報告会の 2 つの目的

議会というものを理解していただきたい。

（執行部とは違って執行権は無く、議決権と執行部に対する監視権を有し
ており、このことを踏まえた上で議会の活動に対する理解を求める。）

政策立案のための意見を伺いたい。

(3) 出席議員紹介・日程説明（19：05～）

当日の出席議員や日程は、別添資料のとおり

(4) 本日のテーマに関する報告（19：07～19：58）

交通局民営化について（19：07～19：36 報告者・・・山上委員）

新庁舎建設について（19：36～19：58 報告者・・・片岡委員）

(5) 意見交換（19：58～20：41）

参加者は、地域名及び氏名を名乗った上で発言。

両テーマ共通の意見として、交通局民営化、新庁舎建設ともに莫大な財政負担を伴
うものであり、現在及び今後の呉市の財政に対する不安の声が多く寄せられた。

2 閉会 閉会挨拶 池庄司委員長（20：42 閉会）

・委員の感想

常任委員会（8人）毎の議会報告会を初めて呉市議会で研修し、先ず、資料のまとめに苦労
されている事が感じられた。事業決定に対しての市民サイドの声の反映をいかに議会が提案
したのかの説明が不足していたように思われる。議会活動が市民に見える形は議会報告会も
大事なツールだと感じた。

予想していた流れになってしまっていた。議会が報告するのであれば、採決に至った経過を
話すべきであろう。ただ、結果だけに質問が集中すれば執行部に成り代わって答弁していた
ように思える。参加者はその地域住民の数%に満たなかったのではないか。しかも議決した



案件に反対の意見を持った人々の集まりが多かったように思える。そうしたことから言えば議決案件に賛成もしくは消極的賛成の意見を持った人々にどのように報告できるのか工夫しなければならないであろう。議決した案件にかぎった報告では住民はいくら意見を言ったところですでに遅く、覆ることはないのである。この点も工夫がいるであろう。傍聴したような報告会を続けて行けばやがて参加者は少なくなって行くのは目に見えており、やがて議会の中でも報告会の意義が問われて行くであろう。そうでなければ議会の自己満足のためにやっているかのどちらかであろう。住民の中に飛び込んで行く姿勢は評価できるが、いかに多くの一般住民に報告できるか、方法は報告会だけではないような気がしてならない。一般住民は執行部も議会も同列に考えているのであって、その違いについての理解はなかなかできなと考えるべきであろう。その上に立って議会としての報告等を考えなければならない。この報告会の目的として、

議会を身近に感じて欲しい。

二元代表制の下、政策立案の為の市民意見を頂きたい。

の二つを挙げられていたが、報告会の内容は必ずしもこの目的に沿ったものにはなっていない。

市民意見を頂きたいのであれば、決定した事の報告では意味がない。

行政報告になっている感じがする。議会としての態度・決意や、議会の動きがどうだったのかを報告する必要があるのでは、市民に寄り添った議会ならではの報告が求められる。報告は報告として、市民からの意見は限定するのではなく多方面の思いを聞いて、それを政策立案に行かせる工夫をすべきと思う。市民からの質問にもあったように決定した事を答弁するのでは、その主旨が活かせない。

二元代表制の下での議会としての立場を理解して頂く、報告でなければならない。

出席者にとって、後味の悪い報告会であったのでは高齢者の参加者が目立ちました。現役世代が参加しやすいよう、土日の開催も検討の余地があると感じました。報告内容は、賛否が分かれている大きなテーマが取り上げられ、反対論者の参加に対する対応は満足が得られたのか、大変興味があります。「参加者アンケートの結果」が今後どのように生かされるのかが問われることにもなり、それこそ、議会と市民のキャッチボールが展開されるのではと期待もあります。呉市議会では、緒についたという感じがあります。実際に見て呉市の議会が、執行部へのチェック機能が十分果たされているかも同時に問われており、先ず、議員一人一人の議会の態度がより一層市民から厳しい目で見られることになり、きっかけ作りに役立てられるのではないかと考えます。

地域の皆さんに直接、市議会議員が議会活動当について報告し、市民の意見や提言をお聞きする機会であり、それぞれの委員会組織で16会場で開催されており、議会を身近に感じ、監視機能、政策立案、開かれた議会活動を目的として開催されており、意見交換のなかで多くの皆さんから意見を拝聴し、それに対応できる回答については各委員の力量により非常に参考となった。本市が、これから取



り入れようとする議会報告会についても、何を報告事項として取り上げるべきかの検討、結果報告だけでなくこれから取り組もうとしている問題、課題等についても視野にいれ議会改革のなかでさらに議論を深めて行きたい。

参加者 33名（議員より年上ばかり） 議員 8名

報告について（60分）

スライドと手元資料を併用しているが、皆手元の資料ばかり見ている。

スライドがある意味なし。報告はシナリオを単に読むのではなくて指し棒を使い、アイコンタクトを多用して聴衆のためのプレゼンを行うべきと考える。とにかくスライドの情報量が多過ぎる。情報量を半分以下にして文字を少しでも大きくして欲しい。

意見交換について（35分）

市民の生々しいコメントが聞ける。

議員の返答がまるで執行部モドキであり、妙な違和感を覚えた。議員として返答すべきである。もっと意見交換の時間は長く（報告の時間は短く）すべきである。

報告の内容が市が報告しているようで、もっと議会で議論した内容や経過を詳しく報告した方がよいと感じた。

結果報告も大切であるが、市民の方の意見や提言を聞くのであれば経過報告を行う方がよいと思う。

報告会の準備にはかなりのエネルギーが必要だと感じた。実施して行くには、議員一人一人の意識をより高めて行く必要がある。

報告内容が、交通局の民営化について、市役所新庁舎の建設についての2題であったので、十分な意見交換ができなかったように思う。

報告内容が既に市が方向性を決定していることなので、意見交換と言っても市民の意見が反映できる段階になっていない。報告会に参加する市民が次第に減っていくように思う。

報告内容が市の方針を議員が追認する形になって、市民の声を聞く議員の立ち位置になっていないように思う。市の方針が決定していることであれば、方針に対して議会がどのような審議をして、修正をしたのか、問題が残るのかなどを市民の前で公開すべきだと思う。

市民の前で、市の重要課題を議会・議員の目線で説明することについては、非常に大事なことであると思う。パワーポイントを駆使しての説明はよく理解できた。

市民の意見・質問に対して数値を挙げての的確な回答がされていないように思う。想定される質問については、数値など事前調査・準備が必要であると思う。

議会報告会は議員の立場でなく、会派の立場ではなく、市政と対峙した議会の立場での報告会であるため、説明会に参加する議員メンバーのチームワーク力が試される場であると思う。

方向性の決定・役割分担など全員参加の議会報告会にすることにより、議会内の活性化が図れると思う。全議員の作業量が確実に増えるが、議員に知識力・判断力・洞察力など多くの議員力をつけるメリットがあるように思う。

議会報告の実施方法などを徹底的に協議する必要があると思う。意見をまとめる方法など、そのために必要なスキルを身につけることも必要であると思う。

